科目名	医療看護実習Ⅱ(慢性期)	前期～後期	3単位
サブタイトル		実習	
担当者	横内 光子、藤原 由子、奥井 早月、関尾 裕子、高呂 節子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1.人はセルフケアを行う力を潜在的に持っているという視点に立ち、病気や障害に対処している慢性病患者を、一人の人として深く理解することができる。</p> <p>2.慢性病患者が健康を維持できるように必要な看護を考え、実践することができる。</p> <p>3.慢性病患者の療養を支えるチーム医療や継続看護について知ることができる。</p> <p>4.看護を実践することを通して、倫理的・道徳的態度を身につけることができる。</p> <p>5.看護の体験を通して感じたことや考えたことを学生同士で話し合い、慢性病患者の特徴や慢性病患者への看護について考えることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>成人期から老年期にある慢性病患者を受け持ち、長期にわたり病気や障害に対処してきた患者の病みの軌跡や治療の特徴をとらえる。ライフサイクルや社会的役割など、患者が置かれた状況を病気の体験と関連づけて理解する。症状や心身の苦痛緩和、病気の急性増悪や合併症の予防、病みの軌跡を予測し療養方法を調整するなど患者のセルフケアを支え、患者が健康を維持できるように必要な看護を実践する。看護の体験を学生同士で共有し、科学的根拠に基づいた専門的な知識や技能と自らの能力や倫理的・道徳的態度をどのように統合すればよいか、患者の療養を支える医療ケアシステムにはどのようなものがあるか、看護師は慢性病患者の健康回復にどのようにかかわっていかかについて討議し、考えを深める。</p> <p>本実習では、慢性病患者へのケア経験のある教員と臨床にいる実習指導者が、慢性病患者の体験を理解し、その理解から支援を組み立て、実践する過程を、サポートする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習初日までに、「実習ガイダンス資料」と「医療看護実習Ⅱ(慢性期)実習要項」を熟読する。 ・健康管理を徹底する。実習開始の2週間前から健康チェックを実施し、所定のフォームに記録する。 <p>[授業計画]</p> <p>病院にて、以下のとおり3週間の実習を行う予定にしているが、感染症の蔓延など社会的な状況によっては、臨地に行く日や時間が短縮される場合がある。臨地で見学あるいは実践できない項目がある場合は、学内実習等で補う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.原則として1名の慢性病患者を受け持つ。実習1週目は、患者を深く理解して、患者と援助的関係を結び、情報を集めて患者のセルフケアに関するアセスメントができるよう行動する。 2.病院実習2週目は、患者のセルフケア不足に対する看護課題を明らかにする。優先度の高い看護課題から順に看護目標を設定し、看護計画の立案ができることを目指す。 3.病院実習3週目は看護を実践し、看護目標の到達度を評価、あるいは次の看護につなげることができるよう行動する。 4.実習内容は、所定の様式の実習記録に記載する。 5.日々のカンファレンスにおいて、実習で感じたこと、気付いたこと、疑問などについてテーマを決め、グループで討議する。 6.中間カンファレンスでは、受け持った患者のアセスメントできたセルフケア不足と看護課題を発表し、どのような方向で看護ケアをおこなっていくかを考える。 7.中間カンファレンスの翌日に学内日設ける。中間カンファレンスでの意見を踏まえて学生は、各自に必要な資料や文献を調べ、看護計画を完成させる。 8.病院実習最終日には病院最終カンファレンスを、実習最終日には、学内にて合同カンファレンスを行う。受け持った患者へ実践した看護や、実習で得られた学びを、実習指導者や異なる医療施設で実習を行った学生と共有し、慢性病患者の特徴や慢性病患者への看護について考察する。 			

科目名	医療看護実習Ⅱ(慢性期)	前期～後期	3単位
サブタイトル		実習	
担当者	横内 光子、藤原 由子、奥井 早月、関尾 裕子、高呂 節子		
<p>[成績評価方法] 目標到達度 (100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 実習記録に関しては、随時教員から学生に指導を含めたフィードバックを行う。 実習の目標到達度については、臨地で学生、実習指導者、教員の三者で面談を行う。学生は、実習で成長できた点や今後の課題などについて、個別にフィードバックを受ける。 自己評価表および課題レポートについては、教員からのコメントを記載、実習指導者から助言が得られた場合はそれも合わせて学生へ年度末に返却する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力) 人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:目標到達度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解) 生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:目標到達度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力) 自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:目標到達度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度) 看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:目標到達度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力) 保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:目標到達度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:目標到達度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:目標到達度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:目標到達度</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			